

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年10月)

発表日2007年12月12日(水)

～貿易収支の黒字拡大で、経常黒字の拡大基調が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL : 03-5221-4548

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		前年比	貿易・サービス収支		所得収支	前期比	貿易・サービス収支		所得収支
			前年比	貿易収支	前期比		貿易収支	前期比	
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.9	▲ 10.5	▲ 9.4	4.1
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.2	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 2.2
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.6	5.3	1.0	3.6
	10-12月期	6.4	13.6	12.1	6.3	19.9	56.2	38.0	1.5
07	1-3月期	23.6	45.7	51.9	12.1	▲ 1.6	▲ 2.4	2.6	1.0
	4-6月期	41.0	50.6	35.9	32.2	16.0	▲ 3.7	▲ 2.1	25.7
	7-9月期	28.9	58.0	45.2	15.2	▲ 5.1	18.8	13.3	▲ 15.4
06	10月	6.3	▲ 34.1	▲ 18.5	37.0	21.8	83.3	55.1	0.5
	11月	20.8	67.3	48.4	▲ 6.6	6.0	46.4	45.2	▲ 16.3
	12月	▲ 4.7	14.3	15.1	▲ 9.5	▲ 2.4	▲ 23.5	▲ 21.4	19.6
07	1月	43.3	-	-	16.3	▲ 7.4	16.1	21.8	▲ 21.6
	2月	4.1	1.2	2.6	7.3	▲ 17.2	▲ 44.6	▲ 39.0	12.2
	3月	35.7	59.1	60.3	13.2	63.3	104.7	71.0	36.5
	4月	48.4	67.2	34.2	41.7	▲ 5.1	▲ 14.7	▲ 7.2	0.6
	5月	30.6	1.5	2.6	36.7	▲ 2.6	▲ 14.0	▲ 12.0	3.2
	6月	48.0	73.9	56.3	▲ 2.6	▲ 7.6	▲ 5.2	▲ 8.8	▲ 8.0
	7月	4.5	▲ 29.6	▲ 17.6	24.6	▲ 14.2	▲ 13.5	▲ 4.8	▲ 11.7
	8月	42.1	316.4	185.2	7.3	25.0	99.9	70.8	▲ 14.6
	9月	40.4	74.1	59.8	14.8	2.2	▲ 24.4	▲ 25.7	35.2
	10月	45.7	113.5	52.3	17.4	14.4	39.5	22.8	▲ 6.5

(出所)財務省「国際収支状況」

○10月の経常黒字額は前年比+45.7%

10月の経常黒字額は前年比+45.7%の2兆2,291億円(原数値)と10ヶ月連続で黒字幅が拡大した。10月は米国向け輸出の鈍化が限定的なものに留まったことに加えて、アジア、EU向け輸出の好調が続いたことを背景に貿易収支の黒字幅が大きく拡大した。また、所得収支も対外資産ストックの増加を背景に黒字幅の拡大が続いており、貿易収支、所得収支の両輪に支えられた経常収支の黒字幅拡大が続いている。

○貿易黒字の拡大が経常黒字を押し上げ

貿易収支の黒字額は前年比+52.3%と、黒字幅が大きく拡大した。輸出は前年比+13.7%(前月同+5.7%)と前月から伸びが高まっている。主要地域別(通関ベース)にみると、対米国が前年比▲1.5%(前月同▲9.3%)とマイナス幅が縮小したことに加えて、対EU、対アジアの高い伸びが続いた。財別にみると、自動車はEU、アジア、新興国向けを中心に好調に推移し、輸出全体を押し上げている。また、世界的にIT関連財の在庫調整が終了したことを受けて通信機なども好調に推移しており、輸出は総じて堅調さを保っているといえよう。一方、輸入は価格高騰が続いている原油輸入の拡大を背景に前年比+8.3%(前月同▲5.4%)と2ヶ月ぶりにプラスに転じたが、輸出と比べて伸びは限定的である。世界経済の拡大を背景に輸出が高い伸びを持続する一方で、内需低迷などの影響で輸入では弱めの推移が続いているため、黒字額が前年を大きく上回る状況が続いている。

サービス収支は、「輸送」、「旅行」の赤字幅が縮小したことに加えて、「その他サービス」の黒字幅が拡大したため、全体の赤字幅が縮小した。内訳をみると、特許等使用料の受取額が増加した影響が大きい。

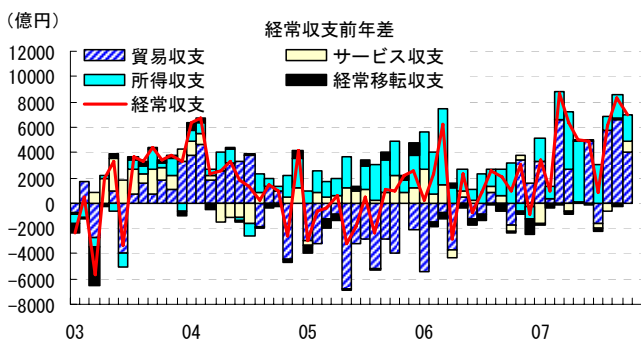
所得収支の黒字額は前年比+17.4%と拡大が続いた。円安による受取額の押し上げ効果は徐々に剥落してきているものの、海外資産ストックの増加を背景に債券利子や配当金の受取額が増加した影響が大きい。以上のように、10月は貿易収支、所得収支でそろって黒字幅拡大が続き、経常収支全体の黒字幅を拡大させた。

○経常収支の黒字額は先行きも増加基調が続く公算が大きいものの、不透明感も高まる

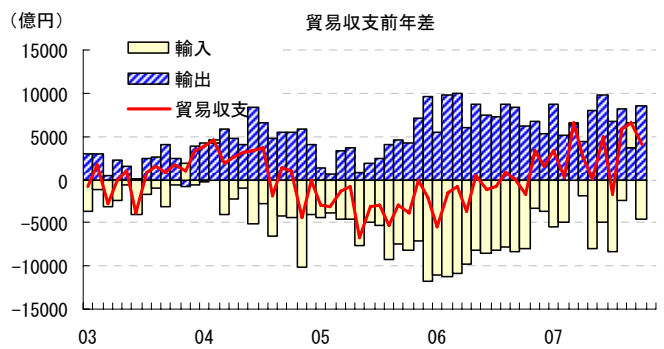
輸出環境を考える上で重要な米国については、住宅市場の調整が当面続くとみられることに加え、ガソリン価格の高騰やマインド悪化を背景に消費が鈍化する可能性が高いほか、先行き不透明感の強まりから設備投資が抑制されるとみられ、景気減速が予想される。ただし、米国では金利利下げ余地が大きいことや、サブプライムローンの金利リセット凍結策などの政策対応が始めていることを考えると、米国経済の減速は限定的なものに留まるだろう。加えて、中国をはじめとする新興諸国では好調な推移が続くとみられることから、今後も世界景気は拡大基調が続く公算が大きいと考えられる。このため、輸出は拡大ペースが鈍化するものの底堅さを保ち、貿易収支の黒字額は先行きも増加基調が持続すると予測する。

所得収支についても黒字額の拡大傾向が続くことを見込む。今後、急速に為替が円高に振れることがなければ、所得収支の黒字は緩やかながらも増加基調で推移すると考えられる。貿易収支、所得収支ともに黒字幅は拡大傾向で推移するとみられることから、経常収支の黒字額は先行きも増加基調が続こう。

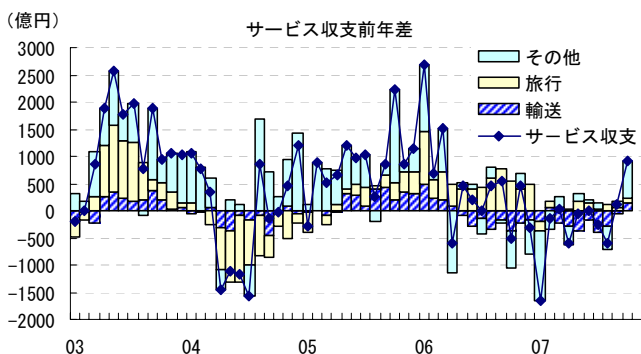
ただし、足元でもサブプライムローン問題に関連する金融市場の混乱は続いており、それが实体经济に深刻な影響を与えるリスクは見ておく必要がある。米国景気については前述の通り景気下振れリスクが強まっていることに加えて、米国経済の失速がこれまで好調だった新興諸国の景気に影響を与えるリスクなど、世界経済の先行き不透明感が高まっている。為替の動向も含めて先行き注意が必要だ。



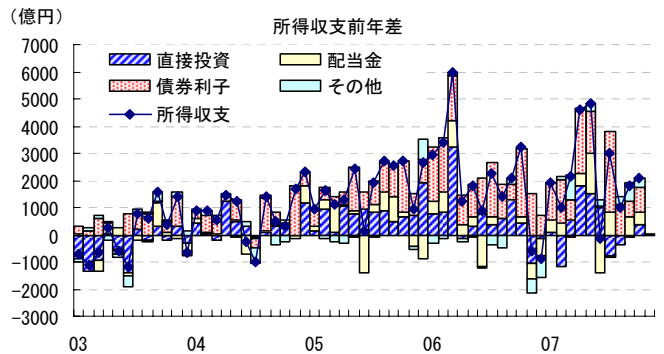
(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。